News＆Topics

【上鹿妻】宝くじの助成金でコミュニティセンターを建設

（一財）自治総合センターは，地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図るため，宝くじの社会貢献広報事業として，コミュニティ活動備品の整備やコミュニティセンターの建設に対する助成事業を行っています。

令和２年度は上鹿妻自治会がコミュニティセンター助成事業の採択を受け，上鹿妻公民館を新築しました。

コミュニティ助成事業について詳細な説明を御希望の方は，市民協働推進課（019-626-7535）まで御連絡ください。

あなたに夢を。宝くじ 街に元気を。
クーちゃん

佐藤康子さん（黒川）が厚生労働大臣表彰を受賞しました。

黒川にお住まいの佐藤康子さんは，令和２年度食生活改善事業功労者として，厚生労働大臣表彰を受賞しました。

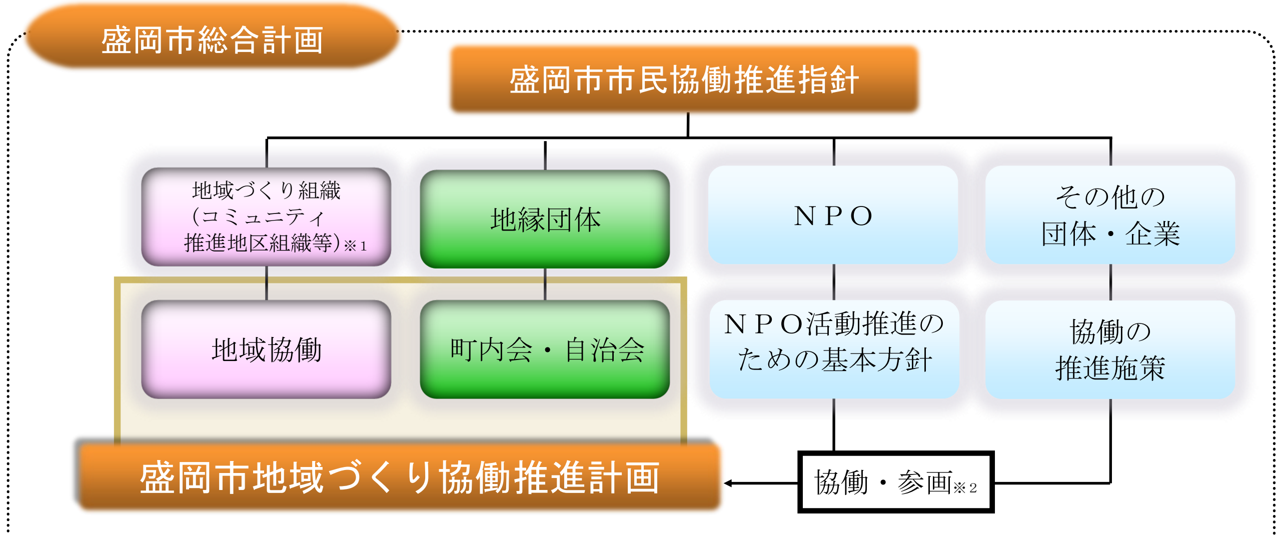
佐藤さんは昭和60年４月に盛岡市食生活改善推進員団体連絡協議会入会後，現在に至るまで長年にわたり，食生活改善活動を献身的に行い，市民の健康づくりの推進と食育の普及に尽力されております。平成元年から桜城南地区理事を６年間，その後監事，副会長を務めたのち，平成22年から会長に就任。現在も協議会の中心的存在として活動の運営に力を入れ，盛岡市民の健康増進に大きく貢献しています。

「私たちの健康は私たちの手で」をモットーに活動を続けている食生活改善推進員の代表として，これからも健康寿命の延伸と，感染症にも負けない食生活改善活動に期待が高まります。

【新設】盛岡市地域づくり協働推進計画

地域住民がいきいきと暮らし，地域の特色を生かしながら，地域の一員としての誇りを持って，次世代につなげていけるような地域をつくることを目指し，市は，『盛岡市地域づくり協働推進計画』を策定しました。計画の実施期間は，令和３年度から令和７年度までの５年間です。

計画の詳細・概要については，盛岡市公式ホームページでご覧いただけます。



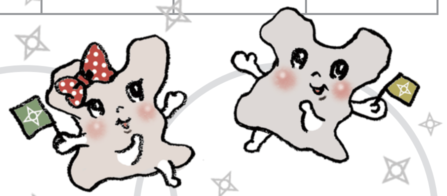
※１地域づくりを目指すコミュニティ推進地区単位で活動する組織を含む。
※２ＮＰＯや企業等は，盛岡市地域づくり協働推進計画に基づき地域づくり組織が進める協働・参画のパートナーとして位置付けます。

回覧										

つながるわ

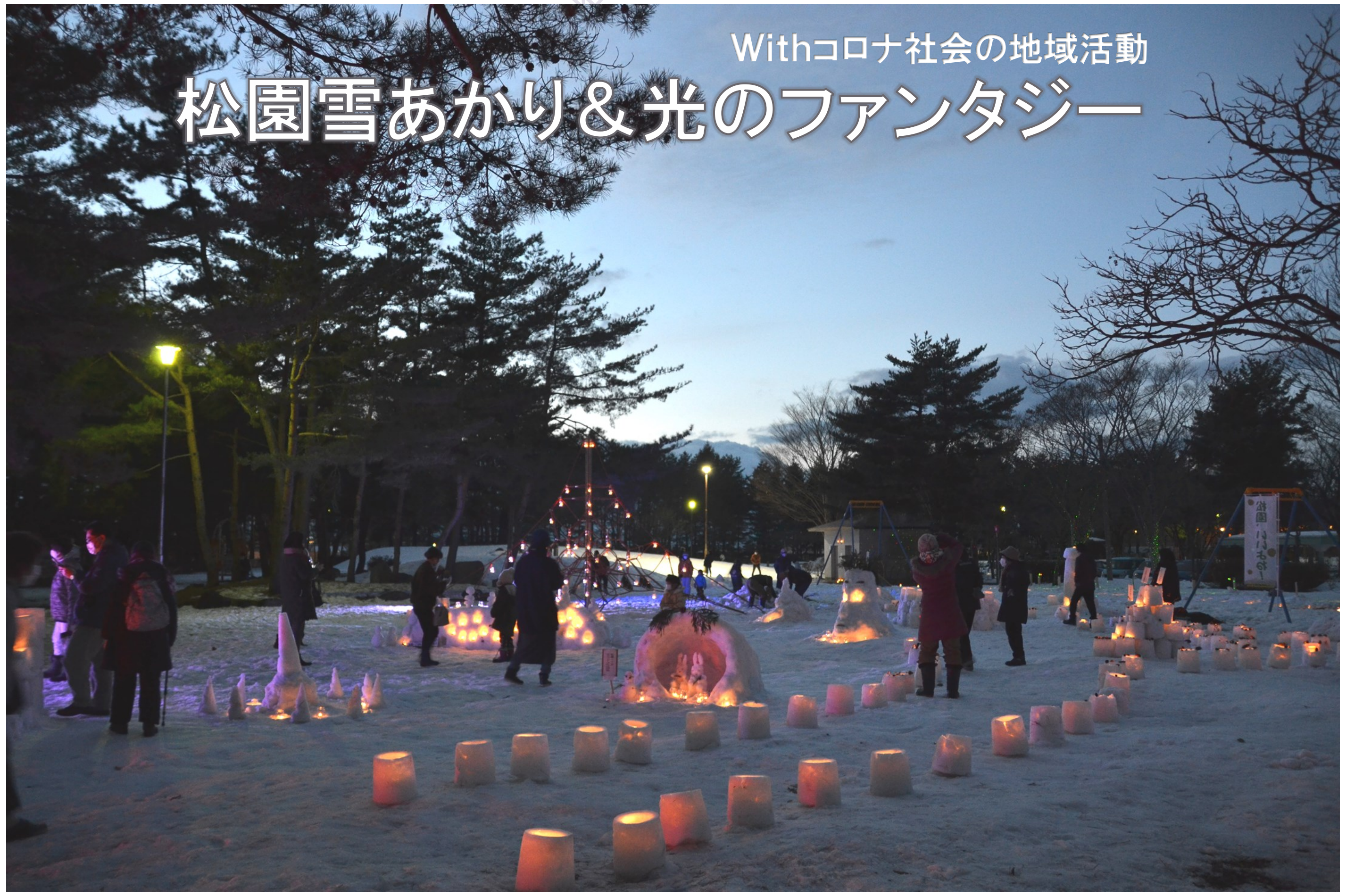
輪・和・WA…

Vol.77



発行：盛岡市市民部市民協働推進課
〒020-8530　盛岡市内丸12-2
TEL：019-626-7535（直通）
E-mail：kyodo@city.morioka.iwate.jp
（令和３年４月発行）

※地域協働かわらばん"つながるわ"は77号から偶数月発行となります。



Withコロナ社会の地域活動

松園雪あかり＆光のファンタジー

２月13日（土）・14日（日）の２日間にわたり，松園中央公園を会場に，「第２回松園雪あかり＆光のファンタジー」が開催されました。主催は松園地区まちづくり委員会（吉田哲男会長）。期間中は，松園地区だけでなく，各地から約500人が来場。キャンドルの優しい灯りに照らされた雪像や，ＬＥＤライトの照射を受け色鮮やかに照らされた樹木を眺め，写真を撮るなどして楽しむ様子が見られました。

当イベントは，「松園地区まちづくり計画」の一環として，令和元年度から取り組まれているものです。令和２年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により，１年を通して様々な行事が中止となりました。このような中で，子どもたちの要望から始まったこのイベントを次年度以降につなげていくため，感染症に配慮しながら開催する方法を模索しました。

具体的には，密を避ける取組として，設営時間を短くかつ少人数で行うために樹木照射用ライトを導入をしたり，来場者の流れの滞留を防ぐために飲食コーナーや餅巻きのイベントなどを無くしました。

Ｗｉｔｈコロナ社会において地域活動を行うには，従来の活動に新たな取組を加えたり活動を見直しするなど，柔軟な発想が重要となってきます。

令和２年度　コミュニティリーダー研修会

１月30日（土），盛岡市総合福祉センターで令和２年度コミュニティリーダー研修会が開催され，町内会・自治会の役員など約40名が参加しました（主催：盛岡市，盛岡市町内会連合会，玉山地域自治会連絡協議会，“世界につながるまち盛岡”市民会議）。

３部構成により開催された今回の研修会。第１部では東厨川地区福祉推進会による活動事例の発表，第２部では（特非）いわて地域づくり支援センター代表理事の広田純一氏による「人口減少時代，地域コミュニティをどうするか？」と題した講演が行われ，多くの参加者がメモをとるなど，熱心に聴講する姿が見られました。

第３部では「担い手不足を解消するため，地域で取り組んでいることは？」をテーマに情報交換会を実施。参加者からは「課題が整理できた」や「活動のヒントになった」といった前向きな感想が多数出され，充実した様子がうかがえました。

ここでは，研修会の主な内容を紹介します。

【第１部：事例発表】　東厨川地区福祉推進会

東厨川地区では，平成25年3月に「地域づくり計画」を策定し，地域の特性を生かしたまちづくりを進めています。

最大の行事である「防災訓練＆さんま祭り」は，東日本大震災の復興支援をコンセプトに企画を考案。救命救急講座や救助訓練といった大人向けの防災訓練のほか，煙体験や消防車両見学なども併せて実施することで，子ども達も楽しみながら参加できるよう工夫しています。また，会場で振る舞うさんま（約300匹）は大船渡の業者から毎年購入しているなど，被災地とのつながりも意識しています。

災害時などに体育館へ避難した場合を想定し，災害備蓄品（避難食）を実際に食べてみるといった，楽しみながらも実践的な要素を取り入れたイベントを実施することで，万が一の場合に必要となる「住民同士で共助する力」を自然と伸ばすことができます。

―　地域が抱える課題は？　―

他の地域と同様，地域活動の担い手（後継者）不足が一番の課題です。価値観やニーズの多様化が進み，社会参加活動形態も多種多様になってきている現在，地域活動に関心が薄い人が増加しているのは紛れもない事実です。

アパート・マンション世帯の参加をどう促すかも悩みの一つ。ファミリー（複数人数の世帯）であれば参加が期待できますが，核家族化の進行により単身世帯が増加しているため，今後ますます深刻化する可能性があると思います。

―　これからの地域づくりのために　―

①地域住民の参加が絶対！

地域コミュニティの維持・発展のためには，地域住民の参加が不可欠。他力本願ではなく，地域住民が主体的に行動することが大事です。

②行事やイベントに付加価値を与える！

夏まつりを例に挙げると，「抽選に当たった」とか「久しぶりに友達に会えた」といった「経験」が重要。行事やイベントにそのような付加価値を与え，ポジティブな印象を残すことができれば，「また参加しよう」「今度は家族も連れて行こう」と思ってもらえます。

③新しいイベントを積極的に企画してみる！

小さなイベントでも良いので，数を増やす（新しいことに挑戦してみる）ことが大事。それによって，参加者の選択肢が増え，多様化するニーズを捉えることができるようになります。

【第２部：講演】　人口減少時代，地域コミュニティをどうするか？

（特非）いわて地域づくり支援センター　代表理事　広田　純一　氏

役員の高齢化や担い手不足，活動のマンネリ化など，どこの地域でも挙げられる課題は，人口減少や少子高齢化，社会全体の近代化などが原因で生じているため，一コミュニティの問題ではなく，「構造的な問題」と言えます。いわば，現在の地域の組織や活動は人口増加時代にできたものであるため，人口減少時代において問題が生じるのは当然である，ということです。

この問題を解決するためには，今の時代に見合った組織と活動に見直すことが不可欠。必要性の薄くなった活動は思い切ってスクラップして，「いま，本当に必要なものは何なのか？」を模索することがスタートです。

―　地域づくりの「コツ」とは？　―

「実践を通じ，成功体験を積み重ねること」。地域づくりに王道（特効薬）はありません。地域力（課題解決力）を高めるための唯一の手段は，住民が協力して課題解決の実践を積み重ねることです。課題のない地域はないため，地域力向上の機会はどこにでもあると言えます。要は「やるかやらないか」。まずは小さな成功を目指し，やれるところからやってみましょう。

―　参加を促進する工夫　―

①「得意」を頼む

誰もが自分の得意なことを頼まれて悪い気はしないため，人を見て仕事を作る（役割を振る）ことがコツ。

②「関心」で誘う

健康や防災，地域の自然・歴史，ボランティアなどは多くの人に共通する関心事。こういう領域で小さなイベントをたくさん仕掛け，顔見知りを増やすことがコツ。

③参加しやすい雰囲気，時間，場所

誘う時はその場限りにし，それ以上の勧誘をしないことも一つの工夫。「一度参加すると何か頼まれるかも」と思うと，一度も参加できなくなってしまう。「参加しやすい」という安心感を持ってもらうのもコツの一つ。

④得意・関心を知る

「得意」を頼むためにも，その人がどういう経歴で，何に関心があるのかということを知っておく必要がある。会員アンケート調査を実施するのもオススメ。

【第３部：情報交換会】　担い手不足を解消するため，地域で取り組んでいることは？

―　参加者から出された主な意見　―

■イベントでたまたま顔見知りになった人が特技を持っていたため，役員に勧誘してみた。いわば「一本釣り」。

■頼めばやってくれる人を誘うことが大事。

■自治会の部会長の多くが高齢となったため，後進を育成するために「副部会長」という役職を創設した。

■マンションに住んでいる人を活動に巻き込むには，PTAや子ども達への声掛けが有効。

■行事やイベントを休日に開催し，若い世代が参加しやすくしている。

■子ども向けの行事を企画することで，働き世代とのコミュニケーションを図っている。

―　講師の総括　―

担い手の確保がうまくできている地域に見られる共通点は，後継者の育成のために，小さな種をまく工夫をしているという点。一朝一夕では後継者は育たないため，次期会長（役員）候補の人達にフォーカスを当て，長期的な視点で育成していくことが大事。